

## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

製品名	グリース A98L-0040-0100
供給者の情報	
会社名	ファナック株式会社
住所	〒401-0597 山梨県南都留郡忍野村忍草3580
電話番号	0120-240-613
ファックス番号	0120-240-673
お問合せ先	https://www.fanuc.co.jp/ja/contact/form/index.html
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	工業用グリース
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は、専門家の判断を仰ぐこと。

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類	
健康に対する有害性	
皮膚感作性	区分1
環境に対する有害性	
水生環境有害性 (短期 (急性))	区分3
水生環境有害性 (長期 (慢性))	区分3
GHSラベル要素	
絵表示又はシンボル	
注意喚起語	警告
危険有害性情報	H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ H412 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	
安全対策	P280 保護手袋を着用すること。 P273 環境への放出を避けること。 P261 粉じんの吸入を避けること。 P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
応急措置	P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。 P333+P313 皮膚刺激又は発しん (疹) が生じた場合：医師の手当てを受けること。
保管	該当しない
廃棄	P501 内容物及び容器を市町村条例、都道府県条例、国内法令及び国際条約の規定に従って廃棄すること。
GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性	皮膚の脱脂。 注：高圧への対応 高圧下での製品接触によって生じた皮膚への注入は、重大な医療緊急事態を招く。 項目4の医学アドバイスを参照すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物																																
成分及び含有量	高精製ベースオイル(IP 346 DMSO 抽出物 <3%)、添加剤、増ちょう剤																																
	<table><thead><tr><th>化学名又は一般名</th><th>CAS番号</th><th>官報公示整理番号 (化審法、安衛法)</th><th>含有量 (質量%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>石油留分</td><td>64742-52-5</td><td>(9)-1689、情報なし</td><td>25以上50以下</td></tr><tr><td>留出物(石油)、溶剤-脱ろう重質パラフィン</td><td>64742-65-0</td><td>情報なし、情報なし</td><td>25以上50以下</td></tr><tr><td>残油(石油)、溶剤脱ろう</td><td>64742-62-7</td><td>情報なし、情報なし</td><td>10以下</td></tr><tr><td>水素化処理した残油</td><td>64742-57-0</td><td>(9)-1689、情報なし</td><td>10以下</td></tr><tr><td>モリブデン酸アンモニウムと C12-C24ジエトキシアルキルアミンの 反応生成物(1:5-1:3)</td><td>情報なし</td><td>情報なし、 施行令別表第9の31</td><td>3.0以下</td></tr><tr><td>ジフェニルイソデシルホスファイト</td><td>26544-23-0</td><td>(3)-2525、情報なし (3)-2535</td><td>1.0以下</td></tr><tr><td>2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール</td><td>4306-88-1</td><td>情報なし、 4-(10)-1361</td><td>1.0以下</td></tr></tbody></table>	化学名又は一般名	CAS番号	官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	含有量 (質量%)	石油留分	64742-52-5	(9)-1689、情報なし	25以上50以下	留出物(石油)、溶剤-脱ろう重質パラフィン	64742-65-0	情報なし、情報なし	25以上50以下	残油(石油)、溶剤脱ろう	64742-62-7	情報なし、情報なし	10以下	水素化処理した残油	64742-57-0	(9)-1689、情報なし	10以下	モリブデン酸アンモニウムと C12-C24ジエトキシアルキルアミンの 反応生成物(1:5-1:3)	情報なし	情報なし、 施行令別表第9の31	3.0以下	ジフェニルイソデシルホスファイト	26544-23-0	(3)-2525、情報なし (3)-2535	1.0以下	2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	4306-88-1	情報なし、 4-(10)-1361	1.0以下
化学名又は一般名	CAS番号	官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	含有量 (質量%)																														
石油留分	64742-52-5	(9)-1689、情報なし	25以上50以下																														
留出物(石油)、溶剤-脱ろう重質パラフィン	64742-65-0	情報なし、情報なし	25以上50以下																														
残油(石油)、溶剤脱ろう	64742-62-7	情報なし、情報なし	10以下																														
水素化処理した残油	64742-57-0	(9)-1689、情報なし	10以下																														
モリブデン酸アンモニウムと C12-C24ジエトキシアルキルアミンの 反応生成物(1:5-1:3)	情報なし	情報なし、 施行令別表第9の31	3.0以下																														
ジフェニルイソデシルホスファイト	26544-23-0	(3)-2525、情報なし (3)-2535	1.0以下																														
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	4306-88-1	情報なし、 4-(10)-1361	1.0以下																														

供給者の現在有する知識範囲と該当する濃度において、健康または環境に対して危険有害性があると分類されるために、このセクションで報告が義務づけられている追加成分は含まれていません。  
職業ばく露限界値の設定がある場合は、項目8に記載。  
製品中での反応等を考慮して国内法規制への適用性を判断しています。  
本製品の適用法令に関する情報は、項目15を参照すること。

#### 4. 応急措置

眼に入った場合	接触した場合、直ちに多量の水で15分以上洗眼する。 まぶたを眼球から離して持ち上げ、よくすすぐこと。 コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。 医師の診断を受ける。
吸入した場合	もし吸入したら、新鮮な空気のある場所に移動させる。 火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。 ばく露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。 症状が現れたら、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	接触した場合、直ちに汚染された衣服および靴を脱ぐと同時に多量の水で皮膚を15分以上洗浄する。 皮膚を石鹼と水で洗浄するか、または認定された皮膚洗浄剤を使用する。 衣類は、再着用の前に洗濯する。 靴は再使用前に十分に洗浄する。 何らかの不快感や症状があるときはそれ以上のばく露を避ける。 医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	医師の指示がない限り、吐かせてはならない。 意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。 意識がない場合、昏睡位（うつ伏せで顔をやや横向き）にして直ちに医師の診断を受けさせる。 健康上有害な影響が持続または重篤な場合には医師の診断を受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	健康への影響と症状の詳細については、項目11を参照。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。 汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。
医師に対する特別な注意事項	処置はおおむね対症療法とし、作用を和らげるようにすること。 火災による分解生成物を吸入した場合、症状は遅れて発生することがある。 ばく露された人を48時間医師の観察下に置く必要がある。
注：高圧への対応	高圧下での製品接触によって生じた皮膚下への注入は、重大な医療緊急事態を招く。 傷は、最初はそれほどひどく見えないが、数時間以内で細胞組織が腫れ上がり、変色し、さらには甚大な痛みを伴い広範囲の皮下壊死が起こる。 速やかな外科的診断が不可欠である。 細胞組織の損傷を最小限に、かつ致命的な損傷を抑えるには、傷口および細胞組織の徹底的かつ広範囲な創面切除が必要。 高圧は細胞組織の断面に沿って、かなり深くまで損傷を引き起こしている可能性があるので注意が必要。
特定の治療法	特定の治療法はない。

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	火災が発生した場合には、霧状水、耐アルコール用泡、粉末、炭酸ガス消火器またはスプレーを使用する。
使ってはならない消火剤	ウォータージェットを使用してはならない。
特定の危険有害性	本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。 本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。
有害な熱分解生成物	燃焼生成物には、下記の物質が含まれる可能性がある。 金属酸化物、炭素酸化物（CO, CO <sub>2</sub> ）、酸化硫黄（SO, SO <sub>2</sub> , …）、窒素酸化物（NO, NO <sub>2</sub> , その他）
特有の消火方法	人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器および完全防火服を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 非緊急時対応要員について 救急隊に連絡する。  
人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。  
周辺地域の人々を避難させる。  
関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。  
漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。  
十分な換気を行う。  
適切な個人保護装置を着用する。  
床が滑りやすい場合があり、転ばないように注意する。
- 緊急時対応要員について 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関する項目8に記載の情報に注意しなければならない。  
「非緊急時対応要員について」の情報も参照。

### 環境に対する注意事項

漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。  
製品が環境汚染（排水、水路、土壌または大気）を起したときは、関係する行政当局に報告する。  
水質汚染物質であるため、大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 少量の流出の場合 漏出区域から容器を移動する。  
物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に収容する。  
許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。
- 大量の流出の場合 漏出区域から容器を移動する。  
流出現場には風上から近づくこと。  
下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。  
物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に収容する。  
粉塵状態になるのを避け、風による散乱を防止する。  
緊急要員がいない場合、漏出物を囲い込む。  
流出物を適切に処理あるいは再生容器に吸込む／汲み上げた後に、流出があった部分を油吸収剤で覆う。  
許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。  
粉塵の発生を避けること。  
乾燥状態で掃かないこと。  
粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。  
海上に流出した場合、管轄の政府・規制機関によって承認された場合、承認されている分散剤を使用することができる。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 安全取扱注意事項

適切な個人保護具を使用すること（項目8を参照）。  
皮膚感作障害の病歴を持つ人を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。  
眼、皮膚および衣類に触れないようにする。  
摂取してはならない。  
使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。  
容器が空でも製品が残存し危険有害性があることがある。  
容器を再利用してはならない。  
流出物への接触と、土壌や表層水への流出を避ける。

### 衛生対策

本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。  
取扱い後は、十分に洗浄する。  
飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。  
項目8の衛生措置に関する追加情報も参照。

### 安全な保管条件

現地の法規制に従って保管する。  
元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質（項目10を参照）および飲食物から離して保管する。  
熱および直射日光を避けて保管する。  
使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。  
この製品のために設計されている装置／容器でのみ保管および使用すること。  
いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。  
ラベルのない容器に保管してはならない。  
環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

### 不適切な取扱い

長期の高温へのばく露

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>表示成分</th> <th>ばく露限界値</th> <th>形態など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石油留分</td> <td>日本産業衛生学会</td> <td>鉱油ミスト</td> </tr> <tr> <td>留出物(石油)、溶剤-脱ろう重質パラフィン</td> <td>OEL-M：3mg/m<sup>3</sup></td> <td></td> </tr> <tr> <td>残油(石油)、溶剤脱ろう</td> <td>8時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水素化処理した残油</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	表示成分	ばく露限界値	形態など	石油留分	日本産業衛生学会	鉱油ミスト	留出物(石油)、溶剤-脱ろう重質パラフィン	OEL-M：3mg/m <sup>3</sup>		残油(石油)、溶剤脱ろう	8時間		水素化処理した残油		
表示成分	ばく露限界値	形態など														
石油留分	日本産業衛生学会	鉱油ミスト														
留出物(石油)、溶剤-脱ろう重質パラフィン	OEL-M：3mg/m <sup>3</sup>															
残油(石油)、溶剤脱ろう	8時間															
水素化処理した残油																
推奨される測定方法	適切な監視規格を参照しなければならない。															
設備対策	<p>危険有害性物質の定量法に関する国の指針文書を参照することも必要になる。</p> <p>ばく露に対する制御を十分に施すため、化学物質を扱うすべての活動について健康に対する危険性を評価する必要がある。</p> <p>個人向けの防御装置の着用は、それ以外の制御手段（機械的な制御など）が施されていることを十分に評価してから検討すること。</p> <p>個人用保護具は、適切な標準規格に準拠しており、使用に適し、良好な状態に保たれ、適切に維持管理されていないといけない。</p> <p>選択および適切な標準規格に関しては、その個人用保護具のサプライヤに相談する。</p> <p>詳細については、国の標準機構に照会する。</p> <p>排気または他の工学的管理を施し、それぞれの大気中の濃度をそれぞれの職業上のばく露限度以下に維持すること。</p> <p>最終的な保護具の選択をリスクアセスメントによって決めること。</p> <p>個人用保護具のすべてのアイテムに適合性があることを確認する。</p>															
環境へのばく露の制限と管理	<p>換気装置及び作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。</p> <p>場合によっては排出物を許容レベル以下に下げのために煙霧清浄機やフィルター、あるいは工程装置の技術的改良が必要になることがある。</p>															
生物学的ばく露指数	なし															
取扱者の保護措置																
衛生対策	<p>化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙、およびトイレの使用前、さらに作業時間の最後に、両手、両腕の肘から手首までの部分、また顔を十分に洗う。</p> <p>汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。</p> <p>汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</p> <p>汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。</p> <p>作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。</p>															
呼吸用保護具	<p>換気が不十分な場合は、適切な呼吸保護具を着用する。</p> <p>呼吸器保護のための正しい選択は処理される化学物質、作業および利用状況、呼吸機器の状態により異なる。</p> <p>使用目的ごとに安全手順を作成する必要がある。</p>															
手の保護具	<p>呼吸用保護具は、サプライヤー／メーカーに相談の上、作業条件を十分に評価して選択しなければならない。</p> <p>長時間または繰り返し接触する可能性がある場合は耐薬品性の保護手袋（ニトリル製を推奨）を着用すること。</p> <p>保護手袋は、使用する化学物質、作業条件および使用条件、手袋の状態（優れた化学的耐性を持つ手袋であっても、化学物質に何度もばく露されることによって傷む）によって、適したものを選択すること。</p> <p>ほとんどの手袋は、短期間しか保護できず、廃棄および交換が必要になる。</p> <p>使用環境および物質の取扱い方法は場合によって異なるため、安全手順は使用目的ごとに決まる。</p> <p>そのため手袋の選択は、サプライヤー／メーカーに相談し、作業条件を十分に評価した上で行う。</p>															
眼、顔面の保護具	<p>サイドシールドのついた保護眼鏡を着用する。</p>															
皮膚及び身体の保護具	<p>保護服の着用は、適切な産業慣行である。</p> <p>作業者の身体保護衣は、作業の内容および関連するリスクに基づいて選択し、本製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。</p> <p>綿製またはポリエステルと綿の混合製のオーバーオールは、皮膚まで浸透しない軽い表面的な汚染に対してのみ保護効果がある。</p> <p>オーバーオールは定期的に洗濯すること。</p>															
その他の皮膚保護具	<p>皮膚ばく露の危険性が高い場合（例えば、流出物を掃除する場合または本製品が飛散する危険性がある場合など）は、耐薬品性のエプロンおよび／または不浸透性の化学防護服およびブーツを着用する。</p> <p>本製品を取り扱う前に、作業とそれに付随するリスクに基づき、適切な履物および追加の皮膚保護具を選択し、専門家の承認を受けなければならない。</p>															

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	グリース
色	淡い茶色
臭い	情報なし
pH	該当しない
融点／凝固点	情報なし
軟化点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
引火点（℃）	222（セタ密閉式引火点試験器による潤滑油基油を基準とした推定値）
燃焼点	情報なし

蒸発速度	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限及び爆発上限／可燃限界	
爆発限界－下限（容量％）	情報なし
爆発限界－上限（容量％）	情報なし
蒸気圧	情報なし
相対ガス密度	該当しない
比重	情報なし
密度（g/cm <sup>3</sup> ）	<1（20℃）
自然発火点	該当しない
分解温度	情報なし
揮発性	情報なし
臨界温度	情報なし
酸化的性質	情報なし
粘度	情報なし
液滴点（℃）	194
溶解度（水）	不溶
常温での溶解性（g/l）	情報なし
n-オクタノール／水分配係数（log値）	該当しない
粒子特性	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	この製品に関する利用可能な特定の試験データはない。 追加の情報については、避けるべき条件と不適格な物質に関する項目を参照すること。
化学的安定性	この製品は安定である。
危険有害反応可能性	通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。 通常の保管および使用条件の下では、有害な重合は起こらない。
避けるべき条件	いかなる発火源（火花あるいは炎）にも近づけてはならない。
混触危険物質	酸化剤と反応あるいは不適合。
危険有害な分解生成物	通常の保管および使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性

製品／成分の名称		種類	結果	ばく露時間	備考
モリブデン酸アンモニウムと C12-C24ジエトキシアルキルアミンの 反応生成物(1:5-1:3)	LD50 経皮	ラット	>2000mg/kg	-	-
	LD50 経口	ラット	>2000mg/kg	-	-
ジフェニルイソデシルホスファイト	LC50 経皮	ウサギ	>5000mg/kg	-	-
	LC50 経口	ラット	3840mg/kg	-	-
	LC50 吸入：蒸気	ラット	>8.4mg/l	4時間	-
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	LD50 経皮	ラット	>2000mg/kg	-	-
	LD50 経口	ラット	>2000mg/kg	-	-

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

皮膚腐食性／刺激性

製品／成分の名称	種類	結果	スコア	ばく露時間／観察／濃度／備考
モリブデン酸アンモニウムと C12-C24ジエトキシアルキルアミンの 反応生成物(1:5-1:3)	ウサギ	眼：結膜発赤	≥2	-/-/-/-/-
	ウサギ	皮膚：中程度の刺激	-	-/-/-/-/-
ジフェニルイソデシルホスファイト	ウサギ	眼：軽度の刺激	-	-/-/-/-/-
	ウサギ	皮膚：軽度の刺激	-	-/-/-/-/-
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	ウサギ	眼：軽度の刺激	-	-/-/-/-/-
	ウサギ	皮膚：軽度の刺激	-	-/-/-/-/-

皮膚感作性

製品／成分の名称	種類	結果	備考
モリブデン酸アンモニウムと C12-C24ジエトキシアルキルアミンの 反応生成物(1:5-1:3)	モルモット	感作性	-
ジフェニルイソデシルホスファイト	モルモット	感作性	-
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	マウス	感作性	-

呼吸器感作性 情報なし

発がん性 情報なし

生殖細胞変異原性

製品／成分の名称	テスト	結果／値	備考
ジフェニルイソデシルホスファイト	OECD 471 試験：In vitro 被検体：バクテリア	陰性／－	－
	OECD 487 試験：In vitro 被検体：哺乳類	陰性／－	同様の物質に関する研究を基にしている
	OECD 474 試験：In vivo 被検体：哺乳類	陰性／－	同様の物質に関する研究を基にしている
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	OECD 471 試験：In vitro 被検体：バクテリア	陰性／－	－
	OECD 487 試験：In vitro 被検体：哺乳類	陰性／－	－
	OECD 4776 試験：In vitro 被検体：哺乳類	陰性／－	－

催奇形性 情報なし

生殖毒性

製品／成分の名称	母体に対する毒性	生殖能	発生毒性	種類／投与量	ばく露時間
ジフェニルイソデシルホスファイト	陰性	陰性	陰性	ラット／経口	－
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	陽性	陰性	－	ラット／経口	－

誤えん有害性 情報なし

可能性のあるばく露経路についての情報

予想される侵入経路：経皮、吸入した場合、眼

起こりうる急性毒性

眼に入った場合

重大な作用や危険有害性は知られていない。

吸入した場合

分解生成物にばく露すると、健康を害することがある。  
 ばく露に続いて重大な影響が遅れて発生することがある。

皮膚に付着した場合

皮膚の脱脂。  
 乾燥肌及び炎症を引き起こすことがある。  
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。

飲み込んだ場合

重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

眼に入った場合

特にデータは無い。

吸入した場合

特にデータは無い。

皮膚に付着した場合

有害症状：刺激、充血、乾燥肌、ひびわれ

飲み込んだ場合

特にデータは無い。

遅発性および即時性の影響ならびに短期および長期のばく露による慢性的な影響

眼に入った場合

一時的な痛みや充血が生じる危険性がある。

皮膚に付着した場合

長期間あるいは繰り返して接触すると、皮膚を乾燥させ、炎症、ひびわれ、及び皮膚炎を引き起こすことがある。

飲み込んだ場合

大量に吸入すると、吐き気や下痢を起こすことがある。

起こりうる慢性毒性

概要

重大な作用や危険有害性は知られていない。

発がん性

重大な作用や危険有害性は知られていない。

変異原性

重大な作用や危険有害性は知られていない。

催奇形性

重大な作用や危険有害性は知られていない。

発育への影響

重大な作用や危険有害性は知られていない。

生殖能力に対する影響

重大な作用や危険有害性は知られていない。

毒性の数値化

急性毒性の推定

該当データなし。

## 1 2. 環境影響情報

環境作用

本製品は水生生物に対して有害であり、長期にわたり持続する影響を有する。

生態毒性

製品／成分の名称	種類	テスト／結果	ばく露時間	影響／備考
モリブデン酸アンモニウムと C12-C24ジエトキシアルキルアミンの 反応生成物(1:5-1:3)	ミジンコ類	慢性 EC50 6.8mg/l	48時間	－／－
ジフェニルイソデシルホスファイト	藻類	急性 EC50 1.6mg/l	72時間	－／－
	ミジンコ類	急性 EC50 1 から 5mg/l	48時間	－／－
	微生物	急性 EC50>100mg/l	3時間	－／－
	魚類	急性 LC50>16mg/l	96時間	－／－
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	ミジンコ類	急性 EC50 0.124mg/l	48時間	－／－
	微生物	急性 EC50>1000mg/l	3時間	－／－
	藻類	急性 ErC50>100mg/l	72時間	－／－
	魚類	急性 LC50>10mg/l	96時間	－／－
	藻類	慢性 EC10 100mg/l	72時間	－／－

残留性・分解性 生物分解性とみなされている。

製品／成分の名称	テスト	結果	備考
ジフェニルイソデシルホスファイト	－	17含有量(%) 28日間	生物難分解性
2,6-ジ-tert-ブチル-4-ノニルフェノール	OECD 302C	31含有量(%) 28日間	－

生体蓄積性 特にデータは無い。  
 移動性 グリース。水に不溶。  
 オゾン層への有害性 該当しない。

### 1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。  
 大量の老廃物質残渣は、下水設備を通して廃棄してはならず、適切な廃水処理施設で処理しなければならない。  
 余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。  
 この製品、この製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。  
 不要な包装材料は再利用しなければならない。  
 焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。  
 この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。  
 清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。  
 空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。  
 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝、下水道との接触を回避する。

### 1 4. 輸送上の注意

#### IMDG

UN番号 規定なし。  
 品名 ー  
 国連分類クラス ー  
 容器等級 ー  
 環境有害性 該当しない。  
 追加情報 ー

#### IATA

UN番号 規定なし。  
 品名 ー  
 国連分類クラス ー  
 容器等級 ー  
 環境有害性 該当しない。  
 追加情報 ー

使用者のための特別な予防措置 情報なし。  
 IMO規則によるばら積み運搬 情報なし。

### 1 5. 適用法令

消防法 該当しない。

#### 労働安全衛生法

特別有機溶剤等 情報なし。  
 第57条の2（名称等を通知すべき有害物）  
 鉱油 80-90質量％  
 モリブデン酸アンモニウムと  
 C12-C24ジエトキシアルキルアミンの  
 反応生成物(1:5-1:3)（モリブデン及びその化合物） 1-10質量％  
 第57条（名称等を表示すべき有害物）  
 鉱油 80-90質量％  
 モリブデン酸アンモニウムと  
 C12-C24ジエトキシアルキルアミンの  
 反応生成物(1:5-1:3)（モリブデン及びその化合物） 1-10質量％

第28条の3に基づくがん原性物質 該当しない。

労働安全衛生規則第577条の2に基づくがん原性物質 記載された成分なし。

労働安全衛生規則第594条の2（皮膚等障害化学物質） 該当しない。

化学物質排出把握管理促進法 該当しない。

その他の規定

オーストラリア化学物質インベントリー(AIIC)	全ての成分は表示されているかあるいは免除されている。
カナダインベントリー	DSL（国内物質リスト）に記載されていない成分があるが、NDSL（非国内物質リスト）にはすべての成分が記載されている。
中国インベントリー(IECSC)（中国既存化学物質インベントリー）	全ての成分は表示されているかあるいは免除されている。
日本インベントリー（化審法既存及び新規公示化学物質）	記載されていない成分がある。
韓国インベントリー(KECI)（韓国既存化学物質インベントリー）	記載されていない成分がある。
フィリピンインベントリー(PICCS)（フィリピン化学品および化学物質インベントリー）	記載されていない成分がある。
台湾化学物質清単	全ての成分は表示されているかあるいは免除されている。
米国インベントリー(TSCA 8b)（有害物質規制法 8b）	すべての構成成分がアクティブか、または免除される。
REACHの状況	本製品はEU域内において、現在のREACHの要件に従って製造されている。

---

16. その他の情報

---

免責

本データシートの正確性を保証するために、可能な限りの措置を講じており、本データシートに記載されている健康、安全、環境に関する情報については、記載日の時点で正確なものです。しかしながら、本データシートに記載されているデータおよび情報の正確性や完全性に対して何らの保証をするものではありません。

本製品を記載された用途以外に使用しないでください。

本製品を安全に使用し、すべての法律および規定に準拠することは、取り扱う事業者の責任です。

弊社は使用者の特別な用途での使用、注意事項の無視、または材料固有の性質により生じた障害や損傷には責任を負いません。

業務用として他の事業者の本製品を提供する購入者は、本製品の使用者に本データシートの情報を提供するために必要なあらゆる手段をとる義務があります。

本製品を取り扱う事業所の事業主は、本データシートに記載されている危険性および従うべき注意事項について、関わりのある従業員および関係者に通知する義務があります。

弊社に連絡して、この文書が最新版であることを確認できます。

この文書に変更を加えることは固く禁じられています。